

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	83	学校名	茨城県立古河第一高等学校					課程	全日制		学校長名	有瀧 由起子				
教頭名	北村 清										事務(室)長名	大川 勝				
教職員数	教諭	44	養護教諭	1	常勤講師	10	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手	3	事務職員	4	技術職員等	4	計	71
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		23	35	43	30	39	38			105	103		6		
商業に関する科		99	94	102	96	106	89			307	279	15				

2 目指す学校像

<p>校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、確かな学力と豊かな心・健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人財を育成する。</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して、自ら課題を見つけ、自ら解決する力を育む学校</p> <p>(2) 望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人ひとりの夢(希望進路)を実現する学校</p> <p>(3) 基本的な生活習慣を確立させ、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を養う学校</p> <p>(4) 特別活動や部活動を通して健やかな心身を育成し、協働を通して人間力の向上を目指す学校</p> <p>(5) 情報発信の充実により「開かれた学校」を目指すとともに、家庭や地域との連携を通して、地域社会と協働できる学校</p> <p>(6) 働き方改革を推進する学校</p>

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	確かな学力と豊かな心、健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人一人の多様な進路希望を実現する教育課程
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	中学校で学習した内容を基に、普通科・商業に関する学科それぞれの特色に応じた学習内容を深め、将来の目標に向かって努力する生徒。文武両道を目指し、特別活動等に積極的に取り組む生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	学習面においては、ICT教育の積極的な利活用を推進している。一方で、授業改善推進チームを中心として教員相互の授業公開や情報交換を推進し、教材研究を進めていくことで学習成果を高める必要がある。そして、探究活動や主体的・対話的で深い学びを通して自分の意見を他者に伝えられる力を身に付けさせる必要がある。	電子黒板および Google Classroom の活用が定着し、学習機会の確保に成果が得られた。次年度は各教科・科目において、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるべく、より効果的な ICT 活用手法を研究・実践していく。 併せて総合的な探究の時間及び課題研究の活性化と、活動の質的向上に向けた指導体制の強化を目指す。
生徒指導	生活面においては、朝の登校指導や生徒指導強化月間の設定をし、確実な実施を通して十分な成果を得ている。今年度は、さらにいじめの防止、交通マナーや危機回避能力を身に付けさせる指導を徹底していく。いじめについては、月 1 回のいじめ防止対策委員会、年 3 回のアンケート調査、全校集会・学年集会、担任による二者面談等を通して早期発見に努めている。特に、SNS による人間関係のトラブルが多い傾	問題行動の未然防止に重点を置いた組織的な指導・支援を継続し、教育活動の充実を図る。 交通安全教室等の情報発信については、概ね適切に行われており、一定の成果が得られた。 スクールカウンセラーとの連携による計画的な教育相談を継続し、生徒の心のケアと早期支援の更なる充実を図る。 いじめ防止については、未然防止に重点を置き、より具体

別紙様式 1 (高)

	<p>向が見られるので、SNSの取扱いについては喫緊の課題である。</p>	<p>的な方策を講じることで、支援体制のさらなる深化を図る。</p>
進路指導	<p>進路面においては、外部講師による講座等を積極的に取り入れている。大学進学では多様な入試方法による合格者が増加しており、学力向上に加え、高校生活の活動実績の蓄積が不可欠となっている。</p> <p>就職に関しては、その資質能力は地元企業などから高く評価されている。今後も多様な進路希望に対して適切に対応できる体制を維持していく必要がある。</p>	<p>多様な選抜方式への対応が課題となっている。特に学科試験やプレゼンテーション等の対策において、早期から組織的な指導体制を構築するとともに、生徒の基礎学力向上に向けた取り組みを強化する。</p> <p>進路希望および選抜方式の多様化に対応するため、課外授業の編成や模擬試験の活用方法を再検討する。模試データの細かい分析・活用を通じ、個々の受験戦略に即したきめ細やかな指導体制を構築する。</p>
特別活動	<p>学校行事等で生徒会・各種委員会を中心に自分たちの活動と捉え、生き生きと取り組んでいる。</p> <p>部活動においては、約 55%の生徒が加入しており、積極的に活動している。運動部・文化部等の活躍は学校全体の活力を生む原動力となっており、全国大会、関東大会出場など大きな成果をあげている。学習活動との両立を目指し、今後も部活動加入率の上昇を推進していくことが重要である。</p>	<p>創立 100 周年を記念し、クラスマッチや文化祭の企画を深化させ、節目にふさわしい特色ある行事の展開を目指す。</p> <p>健康・安全面を配慮した行事のあり方を模索する。適宜、内容の変更等により、安全かつ充実した行事实施を推進する。</p> <p>実行委員がリーダーシップを発揮し、主体的に活動できるよう、指導・支援体制の更なる強化を図る。また、学校行事や生徒会活動の中で、生徒の自主性を育み、学校全体の活性化に努める。</p>
開かれた学校	<p>ICTを活用して、効果的に保護者や地域社会に対して適切な情報発信を行うとともに、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動を通して情報収集に努め、さらなる魅力ある学校づくりを進めていく。</p>	<p>学校説明会や学校公開を通じて、多角的な情報発信を継続的に実施した。今後は、本校独自の教育特色や強みをより鮮明に打ち出した独自性のある広報戦略を模索し、本校の魅力をより戦略的に発信していく。</p>

別紙様式 1 (高)

	<p>今後もホームページの更新を積極的に行い、学校の情報を保護者や地域に適切に配信する必要がある。また、今年度から保護者への連絡手段としてスクリレを導入し、学校からの連絡事項や緊急時の連絡に有効に活用していく。</p> <p>学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努めるとともに、学校関係者との連携を密にし、意見聴取等を通して教育の改善・充実に努めている。</p>	<p>定期的なホームページの更新に努める。</p> <p>進路情報の定期的な発信による、生徒・保護者との共有体制の強化を図る。</p> <p>地域・外部機関との連携強化による、実践的な教育活動の推進とネットワークの構築を目指す。</p>
<p>働き方改革</p>	<p>勤怠管理支援システムによる教員の時間外在校等時間の把握はできている。時間外在校等時間の「月平均時間」は26時間46分、「月平均45時間超過者割合」は18.5%となっており、いずれも減少傾向にあるが、月平均80時間超過者割合も0.2%となっている。生徒完全下校を19時と設定しているが、検定試験や部活動、個別の進路指導等、生徒への直接の指導による在校等時間が多くなることもある。</p>	<p>校務DXの推進により業務の効率化と組織改善を図り、勤務時間の適正化を徹底する。教職員が心身ともに健康で、教育活動に注力できる環境を構築する。</p> <p>効率的・効果的な情報共有による組織運営の円滑化と、校務遂行能力の持続的向上を図る。</p> <p>教材や職員への配布物の印刷は、一昨年度より校内ネットワークによる共有フォルダで個別にデータの閲覧・印刷を進めており、一定の効果を上げているので継続していく。</p>

5 中期的目標

<p>1 ICTの積極的な利活用を推進して「主体的・対話的で深い学び」を実践し、自ら課題を見つけて解決できる力を養う。</p> <p>2 学年の発達段階に応じたキャリア教育を行い、自己の生き方について考えを深めさせ、卒業後の自己実現に結びつける。</p> <p>3 集団生活におけるルールや公共マナーの遵守等を通して自己指導能力を育てるとともに、自他を尊重し、他を思いやる心を養う。</p> <p>4 生徒が主体的に取り組む生徒会活動や特別活動を工夫し、部活動の充実や技術の向上を目指す。</p> <p>5 情報発信による教育活動の広報を充実させ、ボランティア活動や地域の行事等への積極的な参加、企業との連携等を通して、地域社会との協働を目指す。</p> <p>6 働き方改革について、組織としての具体的な目標や工夫を職員間で共有するとともに、職員一人ひとりの意識を高め、働き方の改善を図る。</p>
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<p>1 授業改善の推進</p> <p>観点別学習状況の評価やICTの効果的な利用による指導の改善を行うとともに、課題解決型の学習場面を設定し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</p>	<p>① 年間指導計画（シラバス）により、指導計画を明確にして、生徒に身につけさせたい力の確実な定着を図る。</p> <p>② 観点別学習状況の評価により、生徒が自らの学習を振り返って改善できるようにするとともに、教員が到達状況を適切に振り返ることにより指導の改善を図る。</p> <p>③ 普通科、商業に関する学科各科の特性を活かして、発展的な学習内容を充実させるとともに、進路実現に必要な上級資格取得を目指す。</p> <p>④ 各教科及び総合的な探究の時間・課題研究において、課題解決型の学習や体験的な学びの機会を充実させるとともに教科横断的な学びの機会を工夫する。</p> <p>⑤ 生徒の学習習慣を確立させるための具体的な方策を講じる。</p> <p>⑥ ICT機器（タブレット、電子黒板等）の利用方法について習熟し、授業での効果的な利活用を目指す。</p>

別紙様式 1 (高)

	<p>⑦ 授業満足度(KPI)：「生徒による授業評価」の最終評価において、「授業満足度」を「3.2」以上となることを目指す。</p>
<p>2 進路指導の充実</p> <p>学年に応じたキャリア意識の醸成を目指し、進学・就職指導の充実を図る。</p>	<p>⑧ 多様な進路希望に対応できる進学指導、就職指導、課外学習の充実を図る。</p> <p>⑨ LHRや集会、文書配付等を通して、生徒・保護者への進路情報提供に努める。</p> <p>⑩ 個別面談等のキャリアガイダンスの機会を充実させ、生徒のニーズに応じた助言に努める。</p> <p>⑪ キャリア教育計画に基づき、学年及び進路指導部による進路行事を充実させる。</p> <p>⑫ 個別のポートフォリオについて校内の共通理解を図り、運用する。</p>
<p>3 生徒指導の充実</p> <p>きめ細かな生活指導を展開し、自己肯定感や生命の尊重、規範意識の高揚を図る。</p>	<p>⑬ 規律ある基本的な生活習慣の定着を図り、いじめ防止対策を強化するとともに、問題行動の未然防止・早期発見に努める。</p> <p>⑭ 挨拶の励行を基本に、場にふさわしいコミュニケーション力や自己指導能力を育成する。</p> <p>⑮ スクールカウンセラー等と連携し、生徒の健全な心身の発達を支援する。</p> <p>⑯ 安全に対する啓発指導の機会を充実させ、特に、防犯や交通、インターネット利用等における危機回避能力を育成する。</p>
<p>4 特別活動等の充実</p> <p>特別活動や部活動等を通して心身を鍛え、生徒が自ら考えて行動する活動を通して、心豊かな人材を育成する。</p>	<p>⑰ 学校生活全体を通して、集団の一員としての責任を自覚させ、適切な判断、自主的な行動を促す。</p> <p>⑱ ホームルーム活動や学校行事等を通して、自己有用感や達成感を味わわせ、学校生活に対する意欲を引き出す。</p> <p>⑲ 部活動や対外ボランティア活動への積極的な参加を促し、異年齢、異世代集団における体験や社会貢献等を通して、心身の成長や人間力向上につなげる。</p> <p>⑳ 部活動において、科学的な手法も取り入れながら技術の向上に努め、活性化を図る。</p> <p>㉑ キャリアパスポート(My バトンノート)の運用方法について、校内の共通理解を図り、生徒の主体的な活動や振り返り、改善に資する。</p>

別紙様式 1 (高)

<p>5 「開かれた学校」の推進</p> <p>生徒の活動や成果を外部に積極的に発信するとともに、地域社会と連携して地域貢献を図る。</p>	<p>㉒ ホームページや学校パンフレット、情報共有アプリ等を活用して活動状況を密に発信する。</p> <p>㉓ 学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努める。</p> <p>㉔ 学校評議員・PTA・同窓会との連携を密にし、学校教育の改善・充実に努める。</p> <p>㉕ ボランティア活動や地域の行事等に積極的に参加し、交流を深めるとともに、教科や特別活動における地域社会や企業との連携・協力を推進する。</p> <p>㉖ 各教員が各自の教育活動の中で、地域や社会と生徒をつなげる実践の工夫を行う。 (例：商品開発、コンクールへの応募、出前授業、企業による授業等)</p>
<p>6 「働き方改革」の推進</p> <p>組織としての具体的な目標や工夫を職員間で共有するとともに、職員一人ひとりの意識を高め、働き方の改善を図る。</p>	<p>㉗ 最終退勤時間を 19 時とし、時間外勤務を 1 箇月につき 45 時間、1 年につき 360 時間以内とする。</p> <p>㉘ 各校務分掌内で活動内容の見直しを行うとともに、構成員間の業務時間の平準化を図る工夫をする。</p> <p>㉙ 校内サーバーや教育情報ネットワークの利活用により、情報共有の効率化を図る。</p> <p>㉚ 衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。</p> <p>㉛ 各自が定時退庁日を設定して勤務時間の適正化に努める。</p>